

ひとりひとりひかる

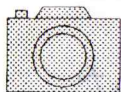
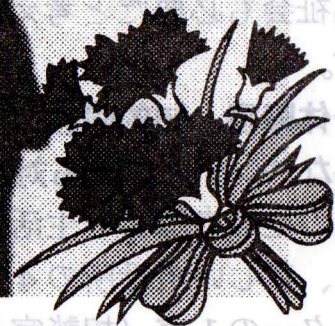
きぼう

2004 4/1  
第36号

発行：かしの木の会/かしの木の里内 尾西市富田字砂原 2147 : kasisato@f7.dion.ne.jp

榎の木園 : kasiem@k3.dion.ne.jp 榎の木作業所 : kasisyo@k2.dion.ne.jp

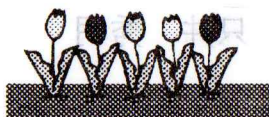
かしの木 ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/>



写真は、平成16年2月21日

(土)、一宮市勤労福祉会館におき

まして、社会福祉法人プロップステーション理事長の竹中ナミさんによる講演会が開催されました。ナミさんのエネルギーの溢れるいろいろなお話を聞く事ができ、私たちも彼女からたくさんの栄養分を分け与えて戴きました。この講演会の中身については、本誌15ページの福祉情報コーナー番外編に感想文を掲載致しましたので、是非ご一読ください。また、少し字が小さくて読み辛いところもありますが、なにとぞご容赦ください。



【36号きぼうの目次】

表紙 写真 目次	P. 1
福祉情報コーナー①②/研修報告	P. 2~3
地域福祉コーナー①/尾西市商工会女性部	P. 4
地域福祉コーナー②/グループホーム	P. 5
地域福祉コーナー③/ホームヘルプサービス	P. 6
地域福祉コーナー④/ピュアハウス	P. 7
かしの木の会コーナー①②/広報・収益	P. 8~9
施設コーナー/かしの木の里	P. 10
施設コーナー/榎の木作業所	P. 11
文芸コーナー①/社会評論	P. 12
文芸コーナー②/陶芸探訪	P. 13
文芸コーナー③/わたしの好きな本	P. 14
福祉情報コーナー番外編	P. 15
お知らせコーナー①②	P. 15~16

## 福祉情報コーナー①

### 尾西市障害者生活支援相談事業 「ともに」スターム

#### 尾西市新庁舎完成！

完成した新庁舎の4階が、社会福祉センターとして、社会福祉協議会を中心とした地域福祉の拠点となります。そこで尾西市障害者生活支援相談事業が新しく産声をあげました。

この地域にお住まいのハンディを持っている方々やその保護者の方が、日頃の色々な悩みや問題を親身になって相談できる場所を望んでいました。そのみなさんの夢が少し叶ったのです。この事業は、尾西市も檜の木福祉会も必要だと考えていたものです。

#### 身体障害、知的障害、精神障害等 どんなハンディの方も対象！

この尾西市障害者生活支援相談事業は、新しい市役所の4階社会福祉センターの1室（相談室3）を借りて、1週間に1回の割合（毎週火曜日）で事業を行っていきます。ここでは、身体障害、知的障害、精神障害のハンディなど、どんなハンディを持ってみえる方にも利用していただけます。

限られた時間と空間ですが、この事業では次の事業内容を目指して進めていければよいと思っています。

その1つは、相談事業です。この窓口を訪ねてみえるハンディを持つ



#### （尾西市役所 ホームページから）

ている方やそのご家族の相談にのる活動です。2つ目は、家庭訪問です。相談に見えた方の依頼を受け、家庭での相談にも応じます。この2つは、尾西市の福祉事務所や社会福祉協議会等と連絡をとりながら進めていきます。

3つ目は、ケアマネージメントです。相談された内容により、公的な機関、福祉サービス機関等連携を図りながら、相談者のニーズにあった支援をコーディネートするものです。

その他にも、時間がゆるす限り、地域の福祉に役立つことができたらと思っています。

この事業は、ハンディを持った方々やその家族、関係機関などの『なんでも相談所』です。一緒に考え、一緒に悩み、一緒に前進するという思いを込めて、『ともに』と名付けました。

尾西市と檜の木福祉会の新しい事業『ともに』をどうぞよろしく、お願いします。

只井 秀明

**福祉情報コーナー②****尾西市知的障害者小規模作業所(通称ピュアハウス)****4月1日にスタートです!!!**

尾西市の支援の下、平成14年度から2年間、養護学校の卒業生とその保護者の皆さんで運営されていたピュアハウスは、平成16年度より尾西市の事業で実施する尾西市知的障害者小規模作業所(通称ピュアハウス)に生まれ変わり、その運営を檜の木福祉会が担う事となりました。これも偏りに尾西市当局のご理解とともに、「ピュアハウス」の皆さんの2年間の努力の賜物と心から深く感謝を致します。

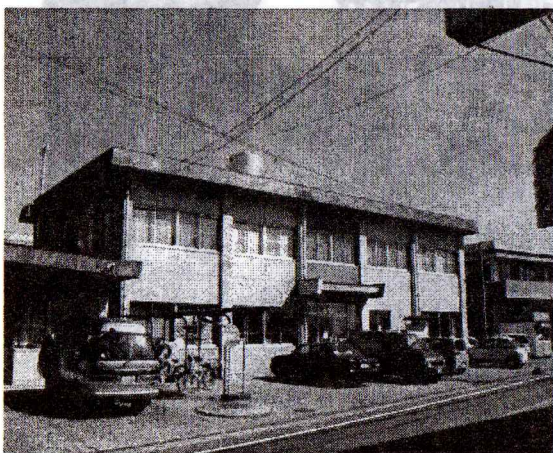
新しく4月からはじまる尾西市知的障害者小規模作業所(通称ピュアハウス)では、ひとりひとりの障害を持つ方が地域の中で自分の思いを実現させるための応援をしていきたいと思っています。その中でも大切な目標のひとつに一般企業への就職があります。知的障害者の方々は、その障害により職業を一つに特定し、その業種にアピールしていく事が困難です。実際、檜の木作業所でも企業への就労支援を行ってききましたが、その業種は様々です。しかも作業所内の活動と平行しての就労支援だったため、



15年度は就職した人はありませんでした。新しいピュアハウスではそのような就労支援を中心に、ハローワークとの連携や企業(職場)開拓と共に、会社に準じた空間作りを柱にしていきたいと思っています。

これと平行して檜の木福祉会では、現在一般企業で活躍されている方に対しても応援していきたいと考えています。会社の中の悩みや休みの日の過ごし方など、微力ですが何かお手伝いしたいと思っています。そのために、檜の木作業所を毎月第2日曜日(午前9時30分~午後2時00分)に開放する予定です。皆さんと一緒に過ごしながら、悩み事を解決したり、余暇の幅を広げていきたいと思っています。

最後に、この文章を書いているのは3月なので、ピュアハウスに対する思いを綴ることしかできませんが、4月からは皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。次回の「きぼう」にて4月以降の活動内容を報告させていただきますのでよろしくお願い致します。 関 高 恵



## 地域福祉コーナー①

## 尾西市商工会女性部さんを訪問!!

今回は、尾西市を拠点にボランティア活動を展開し、長年地域の福祉に貢献されておられるグループ「尾西市商工会女性部」を紹介致します。そもそもこの会は、昭和57年7月（これは丁度かしの木の会の前身であるこの子等の幸せを考える親の会が発足した翌年ということになりますが、）に尾西市商工会の中から新たに産声を上げました。このような地域活動が何故広域的にひとつの繋がりを以って拡大して行ったか、会の基本方針を次のように抜粋してみました。「小規模企業における事業に携わる女性の経営上の役割は非常に大きくその意欲・能力等が経営に与える影響は甚大であるという実情に基づき、また昨今の厳しい経済情勢に鑑み女性の経営上の知識・能力等の向上に役立つ研修事業を中心として、その他教養・文化・体育・レクリエーション事業の実施、また併せて地域経済・福祉等の振興、とくに今後はゴミ問題に代表される環境問題等に関連のある事業の実施、未来ある若手女性部の養成など充実に資する各事業を実施する。」云々。また、年間の事業報告を一見しましても、①びさいまつりへの参加（織姫・童女選出の受託、太鼓演奏、各種模擬店出店、各種バザー参加等）、②尾西市夏祭り前夜祭への参加（踊り披露演奏、太鼓、各種模擬店出店）、あじさい祭りへの参加（太鼓演奏等）、③福祉フェスティバルへの参加（各種模擬店出店）、④料理教室等の文化事業開催、⑤結婚相談所事業、⑥近隣市町村の各種イベントへの参加（太鼓演奏等）、⑦各種クラブ事業（太鼓演奏、ウォーキング、パターゴルフ、グランドゴルフ、賀詞交歓会参加）等々、その目的はあくまでも地域の総合的な発展であり、その活動範囲は枚挙に暇がない程多岐に亘っていることが分ります。会の発足当初は尾西市商工会婦人部と言う名称でしたが、やはり

「婦人」という言葉からして限られた人を対象にしているように感じられる為、改めて幅広い対象の「女性」に変更されたそうです。また、当初のスローガンは一般的な社会活動への参加でしたが、ふとした繋がりがきっかけで平成4年10月から尾西市社会福祉協議会のボランティア連絡会にも所属することとなりました。実は、現在この会の部長を務めておられる古川さんが、既にテレフォンクローバーの会等で活躍されていたという経緯もあり、それならばと商工会女性部も社会福祉の分野で、これまで以上に積極的に活動して行こうということになったとのことです。会員は現在80名ほどですが、皆さんとても活発で生き生きとして頑張っておられます。志をひとつにして地域社会に参加されておられるとはいえ、80名の大所帯を切り盛りして行くことは並々ならぬご努力が必要ではないかと容易に想像されます。最後に、何か今の時点で心配があるとするならば、一宮市・木曾川町との合併で2市1町の商工会及び商工会議所がどのようになって行くかという問題点だそうですが、いずれに致しましても商工会女性部の痒いところまで手が届くような活動は、地域社会を活性化させる上で特に必要なことですから、「是非々々これからも末永くよろしくお願い致します。」と心より念じまして、拙い筆を置きたいと思います。

橋本 昭一



尾西市夏祭りでの風景

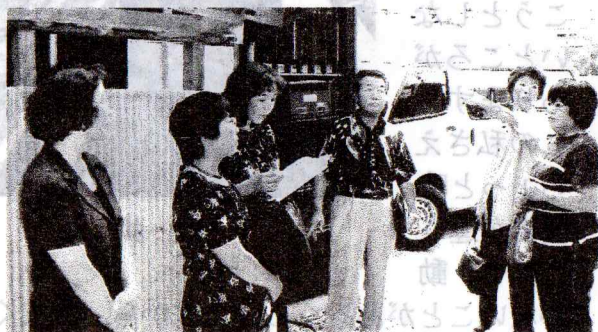
## 地域福祉コーナー② ～グループホームを考える～



介護付きの「有料老人ホーム」が県内でも急増している。高額で老後の生活の場を

手に入れるイメージのある「有料老人ホーム」だが、低料金の施設が現れ、特別養護老人ホームに入所できない高齢者の受け皿としての役割が高まっている。「料金体系」、サービス内容も多様化しており、県高齢福祉課は「施設を選ぶ際は契約内容を慎重に検討して欲しい」と助言している。

この様な高齢者に対する老人ホーム、或いはグループホームは至る所の地域で盛んに進められていますが、知的障害者等のグループホームとなるとこの地域には存在していないのです。



▲ グループホームの見学の様子

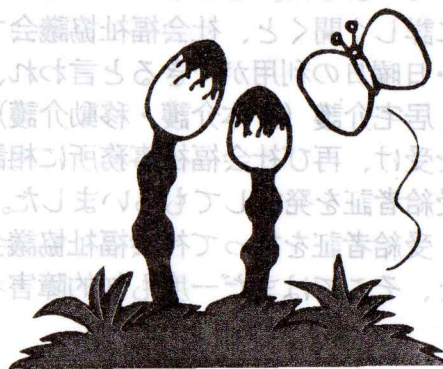
「保護者自身が老い、亡き後も障害者である子供が暮らしていけるように」と願い施設入所を望む保護者は多いと言われますが、知的障害者も普通の場所で普通の生活をするのが当然な事だと思います。

ある保護者の方が、施設内では決められた時間で行動し、又コミュニケーションが

取れず、限られた範囲で生活をしている障害者である子供達に普通の暮らしを出来ればさせてやりたいと望んでいる。

障害者(児)である子供達も、一生施設での生活は望んでないし、又入所施設は利用できないのです。その事は保護者である私達も良く分かっていますが、現時点ではグループホームその物が地域に存在せず、「どこから始めれば、又どの様にして進めれば」、その一步が分からない。との事でした。行政への陳情後も進展せず又事業所自体もいろいろ問題があり立ち上げる事が出来なようです。でも保護者自身がその気になり、少しでも若い内にとグループホームへ向けてのアドバイス又相談にのって頂き、施設保護者の方が、一丸となって取り組めば道が開けるのです。他の地域の施設でも、「立ち上がるまでは不安でしょうがなかった」と言う声はどこも同じです。最初の一步は誰もが不安と勇気が入りますが、施設とよく相談をしていただき、安心して子供達が将来過ごせるグループホームを築いていきたいものです。

(かしの木の里保護者会・高松)



# 地域福祉コーナー③ ホームヘルプサービスを利用して

平成15年4月より支援費制度となり、檜の木園と契約を取り交わし、施設利用をしております。また、短期入所も、かしの木の里と契約しています。それと同様に、今度居宅介護の契約も、祖父江町の社会福祉協議会と契約をして利用し始めました。

私は、今まで自分に用事があると、子供の面倒を、福祉大の学生ボランティアさんをお願いしたり、コロニーをお願いしたりしていました。かしの木の里が、短期入所のサービスを開始して、大変助かるようになりました。しかし、そのサービスの利用者も多く、特に土曜・日曜日には満員の状態で、急に申し込んでも断られてしまうこともありました。



(フィールドアスレチック)

そこで、子供に居宅介護のサービスが受けられないかと考えました。しかし、社会福祉協議会でも見守り的なサービスや土曜・日曜日のサービスはやっていないだろうと諦めていました。ところが12月に訪ねた時に詳しく聞くと、社会福祉協議会でも、土曜・日曜日の利用ができると言われ、さっそく居宅介護(身体介護・移動介護)の許可を受け、再び社会福祉事務所に相談に行き受給者証を発行してもらいました。

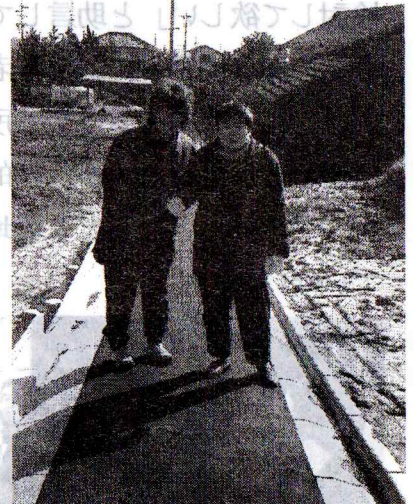
私が、受給者証を持って社会福祉協議会にいくと、そこではまだ一度も知的障害者

の方を受け入れたことがないとのことでした。そこで、最初は2人のヘルパーさんを派遣するということになりました。受け入れたことがないので、敬遠されると感じたのですが、それが積極的に受け入れていこうとする社会福祉協議会の姿勢に嬉しく思いました。

居宅支援を開始して、ヘルパーさんは最初、家で子供の様子を見たり、散歩のコースを回ったりと試行錯誤の状態でした。それでも、少しでも子供を理解しようと檜の木園まで見学にいかれたりして、本当に一生懸命になってくださることが身に伝わってきました。

まだまだ利用し始めたばかりで、主人も一緒にいて手伝ったりしています。利用時間も1回3時間程度なので、ヘルパーさんに慣れるまでには、かなり時間がかかるかなあと思っています。心配なのは、

私の子供の特徴で、散歩に誘っていただいてもすぐに動こうとしないところがあります。この私さえ、ちょっと時間帯が違うだけで、動



(散歩)

かないことがあるくらいですから。うまく散歩にいけるようになると、一步前進かなと思っています。

ヘルパーさんもどのように接したらうまくいくのか迷われると思いますが、子供もまた新しい人との出逢いを体験して、どんな人でもじょうずに接することができるようになってくれればと願っています。

広報・研修委員会 長崎 香代子

## 地域福祉コーナー② ピュアハウスを振り返って

この記事が読者の皆様のお手元に届く頃、ピュアハウスは既に尾西市の支援により、就職を目指した青年たちが通っていることと思います。このコーナーでは、平成14、15年と「ピュアハウス」を運営して来られた保護者の皆さんの思い出を書いて戴きました。

(1) 最初の年度は指導員も十分雇えず、尾西市からの光熱水費相当の補助金を戴きながら、手探り状態で始めたピュアハウスでした。親は指導員になりきれない、という矛盾の中で通所施設の短期入所を利用しながら、何とか毎日を送って参りました。幸いにも、2年目からはパートの職員さんを雇えるほどの人件費も戴けるようになり、利用者(子供たち)の様子も少しずつ変わってきました。色々大変な事もあった2年間でしたが、尾西市当局を始め関係者の皆様方のご指導とご尽力によりここまで来られたと心から感謝致しますと共に、この場をお借りし改めて厚く御礼を申し上げます。利用者も4月からは樫の木に通所施設で個々の状態に応じた支援を受けられることとなりましたが、無認可施設時代に学ばせて戴いた事が将来に活かせるようにこれからも頑張っていきたいと思ひます。 K・H

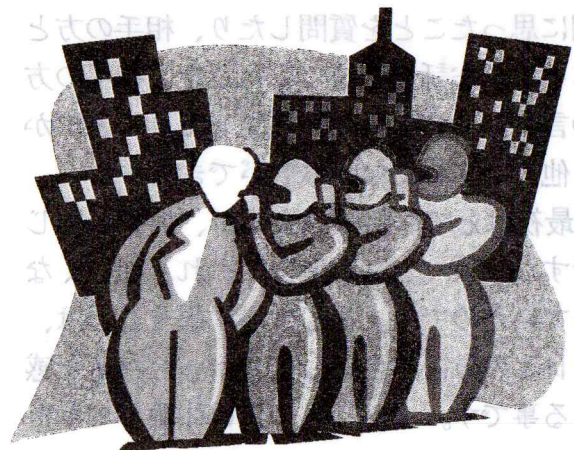
(2) 皆様のお力をお借りし、平成14年4月に無認可小規模作業所が開所して早や2年が過ぎました。お陰をもちまして平成15年度からはパートの指導員さんを雇用し、安心して利用者をお願いすることができるようになりました。そして、今年度からは尾西市整備の小規模作業所として活動できる事になり、市当局を始め地元の皆様、ボランティアの皆様、ピュアの会並びにかしの木の会、樫の木福祉会の関係者の皆様には心から感謝致しております。最後に、ピュアハウスを共に運営し利用してきた仲間のお母さん方、ありがとうございました、そしてこれからもよろしくお願い致します。

> 社会福祉協議会 尾西市支部 事務局 M・U

(3) 2年間を振り返って思う事は、無認可小

規模作業所ピュアハウスを開所したものの、親子同時通所のため作業訓練は家庭生活の延長にすぎず、日を追うごとに問題が発生し、施設の運営や作業指導の難しさを痛感したということです。また、収益活動を通して地域の方達と触れ合うことができ、大変さの中を無我夢中で活動してきた反面、そういったささやかな喜びもひとしおでした。行政や福祉関係者の皆様、地域やボランティアの皆様、樫の木関係者の皆様、これまで幾多のご支援ご協力戴きましてありがとうございました。今後よろしくお願ひします。 H・W

(4) 無認可小規模作業所時代のピュアハウスの一年目は長男と私が、そして二年目からは妹も一緒に通うことになりました。妹は、初めの頃は兄が先に歩いて行くので仕方なく怒りながら後から付いて来ましたが、慣れてくるとだんだん楽しみになってきたみたいで、いつの間にか怒る回数も減りました。二人ともリクレーション(運動会、芋掘り、クリスマス会等々)は大好きで、妹は時々怒ったりしますが、それでも一生懸命楽しんで参加しました。私も保護者として、最初の年は殆ど毎日ピュアハウスにお手伝いに来なければならなかったのですが、2年目からはパートの指導員さんに来て戴きましたので、私も少しは負担が減り、子供たちにとってもよかったです。最後に、ピュアハウスを支えて下さいました皆様本当にありがとうございました。 K・H



# かしの木の会コーナー① ～ 広報・研修委員会 ～

私たち広報では、年に1～2回の学習会の企画や研修会、年4回広報誌「きぼう」および臨時増刊号を発行や、「福祉フェスティバルびさい」への啓蒙活動を行っております。メンバーは若干名で、いつも同じメンバーで活動しており、「きぼう」発行に向け奮闘しております。

広報誌は、記事の内容を企画し、原稿を依頼に伺ったり、自らインタビュー(取材)に出かけます。編集会議では、一枚ずつ入力ミスの無い様点検や、もっとこうしたら見やすいのではないかと、もっと大きくしたら分かりやすいのでは?と色々な事が話し合われます。

印刷は二日間で行います。これは薄い紙の両面を刷るため、片面をすり終えたら半日以上置いてから、印刷に取り掛からないといけないからです。半乾きのまもう片面を印刷すると、印刷機が紙詰まりをおこして作業が順調に進まないのです。(これは何回も経験して分かったことです。)

手作業で折り込み(他の委員会の方々にもお手伝い頂きながら)をします。すべて会員で作った広報誌がこうして皆さんの御手元に届きます。

インタビューは、新聞記者の様にすらすらと進めるものではなく、ひとつひとつ疑問に思ったことを質問したり、相手の方とじっくりお話をさせていただき、相手の方の言葉に共感したり、発見したり、とにかく他では味わえない体験ができます。

最初はとても緊張しますが、何事も同じですが、段々と話が進むにつれ、面白くなっていくのです。そして必ず思うことは、今日この方にお会いして良かったなあと感じる事です。またひとつ良い体験ができた

なあとありがたく思います。

私たち広報・研修委員会では、この広報誌を通じて様々な方々に情報を発信してゆきたいと考えています。福祉情報コーナーでは、平成15年より支援費制度が導入され、福祉の現場ではどのように変化してきているのか、またどのように感じているのか、何が今必要とされているのか、という生の意見をお届けできればと思っています。

また、この地域の方々と一緒に歩んでいる私たちは、この広報誌を一つの情報誌として地域の皆様にもお届けしたいと思っています。いつでも、掲載記事を募集しております。興味のある方はお知らせください。

地域の輪・福祉の輪がこの広報誌と共に広がって欲しいです。一般の方の会員も増える事を願います。(広報 佐藤/大野)

## 会員募集中

広報と聞くと堅苦しい感じはしますが、和やかで楽しい雰囲気です。どうぞお気軽にお越しください。(A会員)

取材は楽しいです。地域の方々とお話ができて、新たな発見もあつたりと自分の為にもなります。かしの木とのつながりも見え、ありがたいなあと思います。(B会員)



▲広報・研修委員会の様子(和やかですよ)

興味のある方は是非事務局までお問い合わせください。(かしの木の里内 かしの木の会 事務局 0586-63-2111)



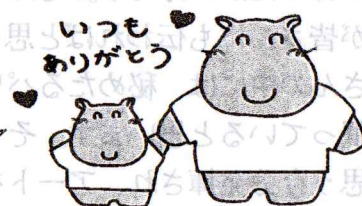
# かしの木の会コーナー② 収益委員会

今回は、収益委員会から、今年度のバザール等の売り上げを報告します。

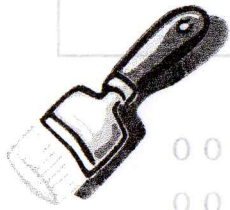
- 5月25日 ピュアハウスバザー
- 6月14日 キラットフェスティバル
- 6月28日 平和町福祉バザー
- 8月10日 檜の木盆おどり
- 8月30日 豊田合成フェスティバル
- 9月21日 ドレミコンサート
- 10月11日 そぶえ福祉展
- 10月18日 一宮福祉とボランティア活動展
- 10月25日 びさい祭り
- 10月26日 〃
- 11月2日 一宮養護学校PTAバザー
- 11月7日 2003手織フェア
- 11月8日 〃
- 11月9日 かしの木フェスティバル
- 〃
- 〃
- 11月9日 一宮寮開寮祭
- 11月22日 檜の木園バザー
- 〃
- 11月23日 コスモスバザー
- 12月6日 大徳小学校バザー
- 12月7日 ときわバザー
- 12月21日 クリスマスコンサート
- 1月28日 松坂屋福祉の店
- ~2月1日

- 手芸品 ￥ 12,000
- 手芸品 ￥ 4,200
- 手芸品 ￥ 12,450
- 不用品 ￥ 40,650
- 手芸品 ￥ 6,350
- 手芸品 ￥ 4,450
- 手芸品 ￥ 59,440
- 手芸品 ￥ 31,730
- 手芸品 ￥ 139,520
- 手芸品 ￥ 19,020
- 手芸品 ￥ 38,570
- 不用品 ￥ 139,596
- 手芸品 ￥ 37,900
- お菓子 ￥ 17,700
- 手芸品 ￥ 26,710
- 手芸品 ￥ 30,720
- 喫茶 ￥ 17,750
- 手芸品 ￥ 21,350
- 手芸品 ￥ 7,500
- 手芸品 ￥ 13,950
- 手芸品 ￥ 15,330
- 手芸品 ￥ 84,058

今年度も各地にて出店させていただきました。販売先のみなさま、ありがとうございました。



# 施設コーナー① かしの木の里



昨年11月より第一回自由創作クラブが始まりました。

ただ、ただ、“アート”を通じて楽しみたいという事から始まった自由創作クラブは、まだまだ未知数で、どんな展開になるのか、私たちにもさっぱりわかりません。

なぜって、一応、今月の創作はコレにしよう決めていても、いざ始まる30分前に、「もっと楽しめるものはないかなあ」の意見から、急に予定していた『フェルト体験（原毛を水と洗剤の反応でくっつけてかわいい模様や、絵を作ります。）』から『大きな布にペンキで落書き』になってしまうんですから・・・。

不安いっぱいから始まるのですが、みなさんはすぐにその世界の住人になり、布いっぱい“自分”を表現されます。何メートルもずっと丸を描いてみたり、アンパンマンがいっぱいいたり、見ているだけでワクワクしてきます。

“自由”ってすてきななあ。“楽しい”っていいなあ。“生きる”っていいなあ、などと思ってしまう。

自由創作クラブは、基本的には、第3日曜日の午前中を予定しています。

講師は、伊藤みゆきさんです。外見は不思議な方ですが、付き合いえば、付き合い合うほどもっと不思議な方です。でも、とっても心根のあったかい方です。そんな、あったかさが皆さんにも伝わればと思っています。

皆さんの中には、秘めたるパワーがたくさん眠っていると思います。そうしたパワーが思う存分発揮され、アートを通じて多

# 自由創作クラブ 始まりました！！

くの人とふれ合い、生きる楽しさを今以上に感じて頂けたらと、この自由創作クラブが発足しました。



▲伊藤さんとクラブの仲間 みんな真剣にお話を聞いてますね！！

多くの方々に参加して頂き、多くの方々の力をお借りし、発展していきたいと思っています。

今後ともよろしくお願い致します。

(かしの木の里 水野 真澄)



←フェルト体験の様子  
原毛に重ねて水と洗剤をかけ、浸透させてつくりま  
す。上からポンポンと手で押さえます。



一枚のフェルトに变身！！



イメージは赤い夕焼けかな・・・？

## 施設コーナー②

## 体力維持を目標に

## 規則正しい食生活を……

春ですねえ……!! 私の庭に咲いているパンジーの花の色が眩しいくらいに輝いて見えます。去年植えたチューリップの球根類も寒い外気から解き放され、嬉しそうに芽を出してきています。この子(お花)たちの咲き揃うのがとても楽しみです。さて、皆さん「健康」についてどのようにお考えでしょうか? 現在、生活習慣病(糖尿病、高脂血症、高血圧、肥満)になる人が増え続けています。一日に必要なエネルギーを超え、余分に摂ったエネルギーが脂肪となり、身体に蓄えられ、それが肥満の原因になります。これを予防するには、「食事」のエネルギー量に気を付ける事と、一日三食の規則正しい食生活に心掛けることが大切です。そして「体力」、自分で思っている以上に身体の機能は低下しています。日頃の運動不足により疲労回復機能も徐々に落ちてきますし、激しい運動の翌日にやって来たはずの筋肉痛も、次第に2~3日後に症状が現れるようになります。だからといって何もしないのでは体力は衰えて行く一方なので、ひとまず現状を維持することから始めましょう。例えば、「歩く(散歩)」っていうのは如何でしょうか。歩行は人間の動作の基本でもあり、無理をせず正しい歩き方をすれば膝や腰に負担がかかりませんし、エネルギーも適度に消費することができます。通常は、一日に30分ぐらいの散歩を目安にして、最初はゆっくりとしたペースで、身体が慣れてきたら徐々に早く歩くようにして下さい。姿勢は背筋を伸ばし、顎を引き、腕をしっかりと振り、膝をできるだけ上げ、前に出した足が踵から地面に着くようにして、できるだけリズムカルに歩くのが理想的です。檜の木作業所でも雨

天以外は、毎日お昼休みにはみんなで散歩に出掛けます。この「誰かと一緒に歩く」という事と「毎日歩く」という事は、実は長続きのためにもすごく大切な条件なんですよね。因みに、私も去年の9月からジョギングを始めたんですが、冬の厳しい寒さに勝てずサボりがちでありました。でも、ようやく季節も春めき穏やかになって参りましたので、これからまた本格的に始めようかと手薬煉ひいている今日この頃です。

山本たか子  
追伸：昨年度より懸案事項になっておりました檜の木作業所の便所の改修工事は、平成16年3月19日をもちまして無事完了致しました。機会がありましたら是非ご利用ください。



みんなで散歩に出かけるぞー!

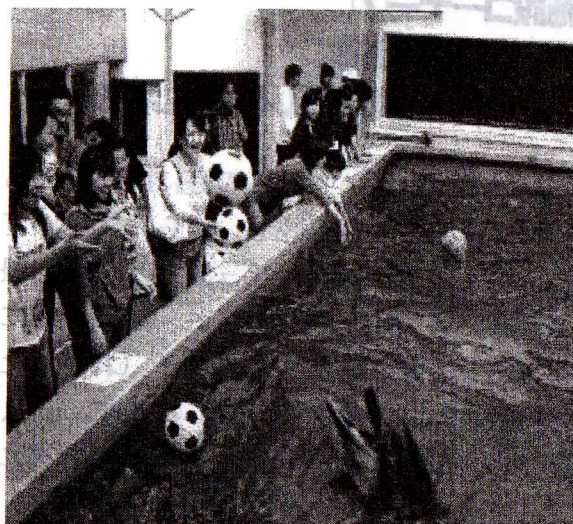


作業所まで走ってGO!

## 文芸コーナー①

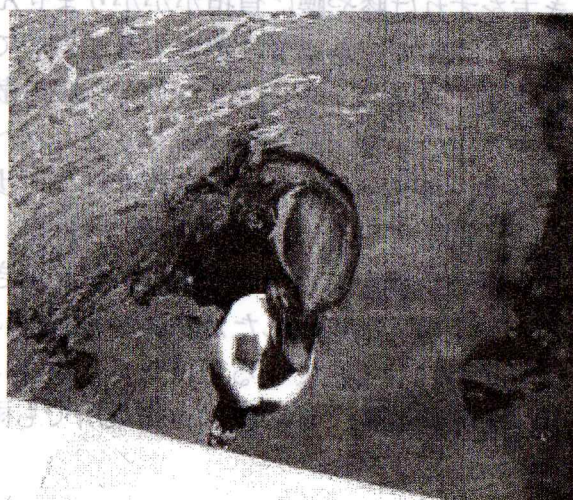
### 許せない特撮マニア

最近の日本人は、おかしい行動を示す人が増えています。テレビ放映されたことで（中には、やらせがあって信用できない番組もありますが）、アフターファイブの男達が放映されておりました。職場帰りの男達が、ある衣料品店に入り、衣料品を手に着替え室へと消えました。衣料品ですから何の不思議もない訳ですが、男達は女性用の衣料品を手にしていました。衣料品ではなく、ロッカーを貸し出している店もあります。ロッカーには女性用の衣料品が入っており、男達は手慣れた手つきで女装化しました。犯罪取締りのテレビ放送では、靴や買い物袋に撮影機（デジタルカメラやその他の撮影機）を仕込んでスカート内部を撮影する民間撮影者が駅・電車・階段・エレベーター、研究心、執着心の旺盛さは余りありますが、他人を脅かし傷をつけることを怖れる方向に心を砕いてもらいたいものです。「異常さ」は同類でも、社会的な犯罪である特撮写真家は止めて頂きたいと思います。こうした異常行動の原因は何でしょうか。人間たちは、退屈をしているのでしょうか。それとも、ストレスの昇華方法を知らないのでしょうか。動物園の動物はやることなく年々発情するというように、自然状態の動物と比較すると奇異な行動をとります。放映された行動も、理性ある人類としてみると奇異な行動です。人間社会全体が、奇異な行動を生み出す仕組みになっているのでしょうか。日本は、世界中から食糧を手に入れており、好き嫌いで平気に食べ物を捨てています。必要以上のエネルギーを摂取し、そのエネルギー消費する活動もないのが現実でしょうか。しかも、仕事や人間関係はストレスの連続です。情報化の中で、精神生活は極度の緊張の連続です。管理する仕組みが完成して、「理性ある人間」として



常に反発・反抗・異論の機会が封じられ従順さやおとなしさを要求されています。ところが、最近では急激に成績主義が横行し、異常な精神状態となっています。憂いさを晴らす場所としても、ありのままの自分では憂いさを晴らすことができません。自分を隠す手段として女装化がありますが、社会犯罪としては危険度がないのでお目こぼしのできる内容です。仮面劇の流行したことを思い出せば、かつての延長線上にある人間的な行動です。いづれにしても、人間関係をつくるのが下手になりました。生身の動物よりもロボットをというように、私たちの心はコミュニケーションのとり方も忘れていたのでしょうか。アニマルセラピーで心を取り戻した人、人は人の中でしか人になれないことを。

太田 欽也



## 文芸コーナー② ～陶芸探訪～

今回は尾西市在住の陶芸家、仲井蓉子先生にお話を伺いました。(→ 先生・芙蓉窯にて)

仲井先生は生まれも育ちも尾西市で、大学卒業後、瀬戸物で有名な瀬戸の職業訓練校にて陶芸を学ばれ、2年間手作り人形の工房で人形を作られ、その後尾西市で活動されるようになったそうです。陶芸を始めたのは、26歳ごろからということです。

自宅でギャラリー兼工房の「芙蓉窯」で人形をつくられています。中に入るとすぐにたくさんの人形が目に入ってきます。人形と言っても様々で、おじゃましたときには、季節柄2月の節分の鬼や3月のお雛さま、5月の鯉のぼり・かぶと等、た〜くさんの種類のお人形がところ狭しと置いてありました。木のアレンジを添えられていたり、とても暖かい感じのギャラリーです。皆さんも一度のぞいて見てくださいね。暖かい気持ちになれますよ。

仲井先生は「作品づくりで一番嬉しいことは、イメージが形になる、土味・土の良さが魅力です。」とおっしゃられました。

色絵付けをして焼くと、焼く前の色と違ってくるそうです。「焼き上がりを予想して作るの、いい色になったなあと思います。だいたいこんな色になるなあというのは分かって、焼きあがると土とふれあって思っていた以上に良い色合いになって、とても嬉しいですね。つくって良かったなあとおもいます。」とのこと。

大変なことは、「形にすると言う事はむずかしい事。出来上がるまでにリスク(苦勞)



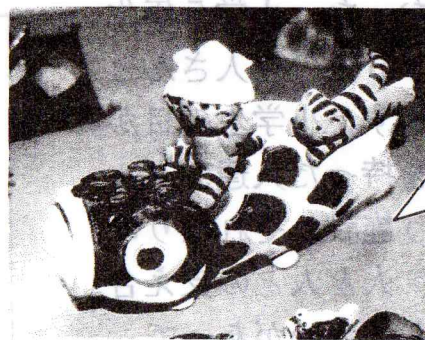
があり、窯に入れても出てみないとわからない。ひびが入ったり、失敗することがあること。形はシンプル(単純)だけ

ど立っていないといけない。」とのこと。

土の粒子が元にもどろうとする事等を“土の記憶”といい、見た目は修正して直っても、乱暴に扱って窯へいれてしまうと、元にもどってしまいます。手を上げた状態の人形をつくったのに、少し下がった状態で焼きあがってきます。これも“土の記憶”です。このように焼き物ならではのリスクがあるのが大変な様ですね。

先生が最後に実際に目の前で作品をつくっていただきました。先生の指はすらっとして、とても素早く動き、ものの5分ぐらいで、かわいい狸や猫を完成させてくださいました。すごいなあっと感激してしまいました。かしの木の会や檜の木園・檜の木作業所・かしの木の里へも陶芸を教えに来てくださって、いろんなアドバイスをいただいています。かしの木の会の陶芸教室、皆さんも一緒にどうですか？

(取材 大野さちこ)



先生の作品

こいのぼり  
(猫編)

# 文芸コーナー③ 『グループホーム』

牧野節子 作  
岡本 順 絵

何年か前、尾西市  
スポーツ大会など  
で小学生がハンディを持った方々や  
老人とともに活動することに違和感  
を持っていました。自分のことで精  
一杯の小学生が、先生の指導に従っ  
て・・・やらせられているような雰囲気  
もあって・・・

しかし、最近の風潮はかわってき  
ました。どうどうと小学生が自らハ  
ンディを持った人と交流したり、ボ  
ランティア的な活動をするようにも  
なってきました。とてもすばらしい  
ことだと思われます。

児童文学の世界も、福祉的な内容の  
本がどんどん出版されてきました。  
しかもどれも大人が読んでも共感を  
呼び、感動があります。以前紹介し  
た『もも子、かえるの歌が聞こえる  
よ』もしかり。そんな中、『グループ  
ホーム』という本が手に入りました。  
この本は、たまたま母がグループホ  
ームの世話人になった、小学5年生  
の男の子純平君が5人の住人さんと  
の心温まる物語です。小学生の目か  
らみたハンディを持った人達、グル  
ープホームという施設、それなりの  
とまどいの中に、人と人との支え合  
いがあり、心のふれ合いがあって、

物語が進行していきます。純平君の  
学校生活、転校、友人、小学生らし  
い悩みを持ちながら、それを乗り越  
えていくということも盛り込まれて  
います。

住人さんに振り回されることが続  
き、母も住人さんにやさしく、子供  
心に母を奪われたような感じを持ち、  
住人さんを受け入れられないまま、  
物語がすすみ、最後に大きな事件が  
おこって・・・

あとは、この本を読んでからのお  
楽しみ。とても心あたたまりますよ。  
今まで、とても悲しい物語ばかり紹  
介してきたのですが。今回ばかりは、  
ハッピーエンド。たまには、涙がな  
くてもいいですよ。

今、施設と地元の小学校が学年単  
位で、ボランティア的な交流を持っ  
とり組みをががあります。小学生だか  
らといって見くびってはいけません。  
ちゃんと、物事を見ているし、とき  
すまされた感性の持ち主もいます。  
この子供達に、ちゃんと答えてあげ  
ることが将来的な福祉向上につな  
がっていくと思われます。



文溪堂

1300円

(樫の木園職員)

### すべての人が誇りを持って生きられる社会に!!! (講演会を聞いて)

神戸市在住の講師竹中ナミさんは、社会福祉法人プロップステーションの理事長であり、心身にとっても重い障害を持っている子供さんの母親でもあります。「人はたとえ障害があっても、目がだめなら耳、耳がだめなら口、口がだめなら舌、舌がだめなら足、足がだめなら手、手がだめなら……、という風に日常の動作を補い工夫する事は意外と出来るものです。」ナミさんは、実生活の体験の中から福祉、医療、教育を独学で勉強し、障害児(者)の自立と社会参加を目指して様々な地域福祉推進を目標に活動されておられます。「現在、わが国では高齢化と少子化が大変なスピードで同時進行しています。日本の社会全体が一人でも多くの方が自分の身の丈に合った働き方で支える、という構造に変化しなければ福祉的財源(人とお金)を維持していく事はできません。プロップステーションでは、やがて到来する高齢化社会を見据え、障害を持つ人たちの全面的な社会参加、就労を支援しています。」一方でナミさんは次のように私たちを励まして下さいました。「私達の日常生活では、モラルすなわち人としての行きや心遣い、その元となる心の在り方や考え方が大切であります。けれども、すべての人がそれを自覚し実行している訳ではありませんし、仮令こちらが相手により事を行ったとしてもすべての人がそれをよい気持ちと受け取って貰えるかどうかは分かりません。人は複雑多岐な刺激と膨大な選択肢、実に矛盾した人間関係の中に投げ込まれています。環境の重圧に耐え忍んでいるばかりではなく、そういったくしがらみの中で精一杯動いて行くしかない。これが私の第一歩だ、と声に出して前進するしかないんです。」そして最後に、「この世には、解決すべき問題が山積みになっています。一人の力だけでは到底及ばないことも、<みんなで歩けば怖くない>と言うように仲間と一緒に力を出し合って前進して行くのみです。どうぞこれからもご支援をよろしく申し上げます。」と締め括られました。長らく私の意識から放擲されていたく為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり。>という格言が俄かに轟き始め、私は息子と共に生きて来た道程を遡行し、徐にナミさんのそれと重ね合わせてみました。

加藤 直江

## お知らせコーナー①

## 食生活改善グループ

### ☆簡単おやつ☆

“炊飯ジャーでできる、バナナケーキ”

材料 市販ホットケーキミックス ……200g  
牛乳 ……3/4カップ  
卵 ……1個  
バナナ ……小2本  
溶かしバター ……大さじ3



ほっておいても  
ケーキができるよ!!



## ワンコイン小包のご寄付ありがとうございます

尾西郵便局より、ワンコイン小包「EXPACK500」200枚を檜の木福祉会へご寄付いただきました。これは500円で全国どこでも送ることができるA4サイズの紙袋で、切手等は不要で投函できる大変便利なものです。「利用者の皆さんが作られた自主製品や見本などの送付に役立てて下さい。」と暖かいお言葉をいただきました。これからも自主製品の販売促進に努力してゆきたいと思っております。

(作り方)

- ① バナナは皮をむいて、あまり細かくならない程度にフォークなどでつぶす。
- ② ①に牛乳を加えて混ぜ、ホットケーキミックスと卵を加えて泡立て器でさっと混ぜる。
- ③ 溶かしバターを加えてゴムべらで混ぜ、炊飯ジャーのかまに流し込み、生地を平らにならす。かまの底を軽くたたいて、余分な空気を抜く。
- ④ ご飯を炊くのと同様にスイッチを入れる。保温に切り替わったら5分ほどおく。焼けていないようなら再びスイッチを入れる。
- ⑤ 中央に竹ぐしを刺しても、生地がついてこなければ出来上がり。少しのべとつきなら保温だけで10分ほど置くと良い。

## リフト付マイクロバス助成ありがとうございます

かしの木の里では、重症心身障害者(児)通園事業に取り組んでいます。この3月に、国・県から補助を頂き、見出しの福祉車両を整備することができました。これからは障害の重い利用者たちの送迎や、地域への外出などに活用できるようになりました。

# お知らせコーナー②

行事予定 4月から

4月24日(土)

かしの木の会総会 尾西市役所新庁舎 6階

4月25日(日)

榎の木園バザー 午前10時より

5月9日(日)

身障者スポーツ大会 大徳小学校

5月30日(日)

クリーン作戦

6月6日(日)

榎の木運動会 かしの木の里隣グランド



御願

広報研修委員会からの御願

「きぼう」の記事を募集しています。どんなことでも、かまいません。身近な情報、話題をお待ちしております。

広報研修委員会まで

平成16年度普通救命講習会

第1回 平成16年6月20日(日)

・9:00~12:00(3時間)・尾西市消防署研修室

・費用 無料 ・参加対象者 尾西市内在住・在勤で中学生以上 申し込みは!

尾西市消防署救急係 0586-62-3163 ダイヤルイン

## 中長期整備事業の有志による自己資金積立状況

(平成16年3月15日現在)

1. 累計積立額 10,603,840円 (目標額: 3000万円/4年間)
2. 協力者数 149名 (目標数: 150名以上)
3. 取組み経過月数 32ヶ月 (平成13年8月開始)

○ 皆様方のあたたかいご支援とご協力に支えられて取り組んできました、有志による積み立ても、おかげさまで累計1000万円を突破しました。これまでのご協力に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、支援費制度に移行して早1年、ようやくこの制度が皆様方にも理解されてきたところではないでしょうか。私達の取り巻く環境や情勢も大きく変化しつつある今日、この有志による積み立ての取り組みも、大幅な見直しが求められています。

そこで、今度の総会で具体的な見直し案を相談させていただきたいと考えています。活発なご意見をいただければ幸いです。

なお、前回のきぼう第35号でもご案内しましたように、平成16年4月分以降の積み立ては、保留させていただきますよう、よろしくお願いいたします。

☆ 随時 作業・行事ボランティアさんを募集しております!!

詳しくは、かしの木の里 0586-63-2111 担当 武田まで。

尚、かしの木の会/手芸品 かしの木の里/自主製品を、かしの木の里・施設内にて販売しております。榎の木園にて花苗を販売しています。お立寄りの際はどうぞご覧下さい。

榎の木園ボランティアさん募集

どのような内容でもかまいません。

行事を共に楽しみたい方

作業を共に励みたい方

連絡をください。 榎の木園 丹内まで

## 地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

### かしの木

かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県尾西市富田字砂原 2147番地 Tel 0586-63-2111

かしの木の里内 Fax 0586-61-1200

榎の木福祉会☆榎の木作業所 尾西市富田字漆畑1 6番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514

☆榎の木園 尾西市富田字若宮1 7番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253

☆かしの木の里 尾西市富田字砂原2147番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200